ひとまち ふおとニュース ひとまち

川越の医療福祉現場を視察

10月21日～23日に「ASEAN・日本社会保障ハイレベル会合」が東京都港区で行われました。厚生労働省が開催し、12回目となる今回の会合は、医療福祉などの観点から高齢化施策についての提言をまとめるために実施されました。2日目には、ASEAN各国と中国・日本の行政官54人が、保健福祉行政の現状や、医療福祉現場の実例を学ぶため川越を訪れました。

①医療福祉現場の取り組みなどについて多くの質問が寄せられました。②電動アシスト付き車椅子を体験。③脳の機能障害による片麻痺の疑似体験。利き手でトレーを持って視界を遮り、鏡を見ながら反対の手でパンにクリームを塗ります。④高齢者が生き生きと活躍する姿を視察する観光ツアー。シルバーガイドの案内のもと川越まつり会館や菓子屋横丁などを見学しました。

＊①②③は、市内の医療法人施設で撮影。

行って　会って　体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸あるき ひとまち

ビジネス研修生との交流

川越商工会議所とドイツのオッフェンバッハ商工会議所は「ビジネス研修生相互派遣事業」を実施しています。研修期間は3か月で、現在、ダービッド・ボーデンゾーンさん(27歳)がさまざまな研修に参加しています。今回は、滞在中の市民の方との交流の様子を取材しました。

現在ボーデンゾーンさんは、宮元町の前野孝さん宅にホームステイをしています。妻の美恵子さんにホストファミリーを始めたきっかけを伺うと「子どもに語学を習わせたいと思い、10年程前から留学生の受け入れを始めました」。

また、孝さんは「言葉があまり通じなくてもお互いのフィーリングなどで意思が通じると、自然と笑いが起こります。そのときは、うれしくなりますね」と話します。

晴天に恵まれた川越まつり当日、ボーデンゾーンさんは、新富町二丁目の山車曳きに参加。山車の大きさに驚いた様子でしたが、動き出すと「そーれ」と大きな声を出したり、記念撮影をしたり、まつりを楽しんでいました。

ボーデンゾーンさんに川越の魅力を伺うと「伝統的なものとモダンなものが一緒になったまちが印象的です。甘いものが好きで和菓子がとてもおいしいです」と笑顔。また「ドイツに帰ったら友達や家族に川越のことを紹介したい。6年後のオリンピックのときには、また川越に来たいです」と勉強中の日本語で答えてくれました。